

所 報

2023. 1~12

2023年1月から12月までの社会科学研究所の活動は以下のとおりである。

1. 機関及び人事

1. 定例所員総会

所員の総意のもとに、各所員の積極的な参加を活力にして、本研究所を民主的に運営し、社会科学の総合的研究を推進していくために努力をしてきた。今後も、所員の意見・希望等に積極的に応えていきたい。

(1) 第121回定例所員総会 2023年6月3日(土) 10:00～12:30 オンライン

議事：所長挨拶、所員等の異動、2023年度社研体制、2022年度事業報告、同会計報告、2023年度事業計画案、同予算案、その他、すべての議案は承認された。

(2) 第122回定例所員総会 2023年12月9日(土) 9:30～12:30 オンライン

議事：所長挨拶、所員等の異動、2023年度事業中間報告、同会計中間報告、2024年度事業計画案、同予算案、その他、すべての議案は承認された。

2. 所員の異動 (2023.1.1以降)

1. 所員の委嘱・解嘱

委嘱：高原豪(経)、津布久将史(経)、伊藤博明(文)

解嘱：倉持俊弥(営)(逝去)、高橋義博(経)、堀江洋文(経)、小川浩三(法)、
白藤博行(法)、渡部重行(国)(以上、定年退職)
：高橋龍夫(文)(依願退職)、秋吉美都(人)(申請による)

2. 研究参与の委嘱・解嘱

委嘱：堀江洋文、白藤博行、渡部重行

解嘱：

3. 客員研究員の委嘱・解嘱

委嘱：

解嘱：

4. 特別研究員の委嘱・解嘱

委嘱：濱口正幸

解嘱：なし

3. 運営委員、会計監査、事務局員の構成

1. 2022年度社研体制

運営委員		事務局員 (○はチーフ)	
所長	大矢根 淳 (人)	事務局長	小池 隆生 (経)
事務局長	小池 隆生 (経)	会計	○埴 武郎 (経)
前事務局長	樋口 博美 (人)		板井 広明 (経)
運営委員	田中 隆之 (経)	研究会	○石川 和男 (商)
	白藤 博行 (法)		飯沼 健子 (経)
	蔡 イン錫 (営)		久木元美琴 (文)
	神原 理 (商)		恒木健太郎 (経)
	嶋根 克己 (人)		長尾 謙吉 (経)
		編集	○柘田大知彦 (経)
会計監査	新田 滋 (経)		杉橋やよい (経)
			鈴木奈穂美 (経)
			山縣 宏寿 (経)
		文献資料	○徐 一睿 (経)
			兵頭 淳史 (経)
		HP / PC	○高萩栄一郎 (商)
			吉田 雅明 (経)

2. 2023年度社研体制

運営委員		事務局員 (○はチーフ)	
所長	大矢根 淳 (人)	事務局長	小池 隆生 (経)
前事務局長	樋口 博美 (人)	会計	○埴 武郎 (経)
運営委員	田中 隆之 (経)		板井 広明 (経)
	内藤 光博 (法)	研究会	○石川 和男 (商)
	蔡 イン錫 (営)		飯沼 健子 (経)
			(後期・在外研究員)
	神原 理 (商)		久木元美琴 (文)
	嶋根 克己 (人)		佐藤康一郎 (営)
			恒木健太郎 (経)
			長尾 謙吉 (経)
会計監査	清水 真志 (経)	編集	○柘田大知彦 (経)
			杉橋やよい (経)
			鈴木奈穂美 (経)
			山縣 宏寿 (経)

- 1) 特別研究継続申請◇川上隆志グループ「現代社会における「治癒文化」の総合的研究－聖地・文学・震災復興と寺院・温泉・共同体」(2年目) ◇田中隆之グループ「総合商社論への多角的アプローチの模索」(2年目)

②所員申請、客員申請

- 1) 新規客員研究員申請なし
- 2) 2022年度客員研究員継続申請確認
- 3) 2022年度参与候補5名 高橋義博(経)、堀江洋文(経)、小川浩三(法)、白藤博行(法)、渡部重行(国)

③研究会

- 1) 2022年度春季実態調査(北関東Part3)終了報告、参加者12名、実態調査会計報告
- 2) 2023年度VASS-INASとの共同事業(共催シンポ@ハノイ)の企画について
- 3) 2023年度専修大学大学院経済学研究科・専修大学社会科学研究所共催『政策科学シンポジウム』の開催について(案)

④所報：月報、年報進捗

文献資料CEICデータベースのモジュール追加購入(Russia)

⑤文献資料(整理・製本)CEICデータベースのモジュール継続購入(チャイナプレミアム：中国統計モジュールを主として)契約の自動更新はしない旨、新たに契約書に覚書記載

⑥PC/HP 出田町デザインワークスによる各種申請の電子化作業の遅れについて4月前半中にデモンストレーション予定

⑦2022年度予算執行状況と残金の処理について

⑧その他

2023年度

(1) 第1回：4月20日(火)ハイブリッド@社研事務室およびTeams

①2023年度社研運営体制

事務局・運営委員の体制、所員の異動、研究参与・客員研究員・特別研究員の意向確認状況、参与の承認

②2022年度報告(「2022年度事業報告書」に基づき)

研究調査事業報告(定例研究会、シンポジウム、夏季・春季実態調査、研究助成等)／所報の刊行(年報、月報、叢書)／文献資料(収集と整理)／HP/PC(公開作業継続)／2022年度決算報告

③2023年度事業計画

特別研究会(案)・夏季実態調査：ベトナム社会科学院との共催シンポに併せたエクスカージョンの実施／春季実態調査：9月以降、11月までに準備に入れそうな状況であれば行う／公開定例研究会・公開シンポジウムを実施していくことを確認

特別研究助成、グループ研究助成の募集(案) 特別継続100万×1件、新規100万×2件=300万、G継続A 50万×2件、新規A 50万×3件、新規B20万×5件=350万程度→4月21日募集開始→5月

12日の締め切り→5月16日第3回事務局会議で確認予定。

④所報の刊行予定について

月報 (No.718 ~ 729) 刊行予定/年報 (第58号) 募集 →第2回事務局会議後募集開始、エントリー締め切り6月末日/叢書 (第26号) 編集体制・契約書等作成→2021年度終了の小池グループによる。契約書5月中に作成、2023年2月までに納品予定。

⑤文献資料 (整理・製本)

文庫整理作業の継続/資料: CEICデータベースの利用継続/各種申請の電子化継続

(2) 第2回: 5月3日 (火) ハイブリッド@社研事務室およびTeams

①2022年度社研体制

②公開定例研究会開催日 6月1日 (木) 16時35分~18時15分、開催場所 生田校舎1号館3階131教室、参加者予定人数50報告者: 芝井清久: 情報・システム研究機構、ROIS-DS/統計数理研究所特任助教テーマ「核抑止の効用と北朝鮮の平和的非核化の可能性」討論者: 原田博夫 (参与)

③特別研究助成、グループ研究助成の申請状況確認。

④所報刊行予定および進捗確認

(3) 第3回: 5月30日 (火) (運営委員会との合同会議) ハイブリッド@社研事務室およびTeams

①所長挨拶

②2022年度事業報告

③2022年度会計 (収支決算) 報告、会計監査報告

④2023年度事業計画案

2023年度事務局・運営委員の体制、所員の異動、新所員の承認、会議・総会予定/研究調査事業・定例研究会 (予定)・特別研究会: 夏季実態調査企画、春季実態調査企画、シンポジウムの予定・研究助成: 2023年度継続・新規の研究助成の審議と承認 (グループ研究A,B・特別研究) /所報刊行・年報、月報の刊行予定・進捗、月報エントリー制導入 (承認)・叢書第25巻 (代表大矢根淳所員) の専大センチュリーとの契約について確認/文献資料・特別文庫の修復・整理/PC/HP・所報デジタル化・デポジット化

⑤2023年度予算案

(4) 第4回: 6月22日 (火) ハイブリッド@社研事務室およびTeams

①法人監査 (6/9実施) の指摘および対応について報告・グループ研の会計書類修正等

②予算執行状況

③特別研究会企画案 (夏期実態調査) について長尾所員より説明/定例研究会の承認: 矢野G、7/25 (火) 12:30~13:30、生田校舎2号館2階226教室、津布久将史所員 (本学経済学部 准教授) Bilateralism, Plurilateralism, and the Trade Costs

矢野G、6/28 (水) 12:30~13:30、生田9号館6階M969会議室、Maria Angeles Pelegrin Sole

(アンジェルス・ペレグリン先生) (専修大学経済学部海外客員教授. バルセロナ大学 (スペイン)) Economic Trends in Spain、社研本体、7/6 (木) 16:00 ~ 18:00、生田校舎10号館2階10214教室及びZoom * ハイブリッド、Tin Maung Htwe 氏 (Affiliated Researcher, Chiang Mai University)、Labor Out-Migration from Myanmar、嶋根G、7/25 (火) 16:35 ~ 18:05、生田校舎2号館2階224教室、Dang Thi Viet Phuong/ Nguyen Quang Tuan (Comment) (Vietnam Academy of Social Sciences / Institute of Sociology) On Vietnamese Labor Force Today. (TBA)、田中G、7/7 (金) 16:00 ~ 18:00、一般社団法人日本貿易会会議室 (ROOM-A) 及びハイブリッド、岡崎哲二氏 (東京大学大学院経済学研究科教授)、大石直樹氏 (埼玉大学大学院経済学研究科准教授)、小村智宏氏 (未来経済研究室)、岡崎哲二・大石直樹編『戦前期日本の総合商社』について、岡崎哲二・大石直樹編『戦前期日本の総合商社』について、岡崎哲二・大石直樹編『戦前期日本の総合商社』に対するコメント、森G、8/1 (火) 16:00 ~ 18:00、社研会議室、徐一睿所員 (本学経済学部 教授)、①COVID19が経済社会に与えたインパクト森啓輔所員 (本学経済学部 准教授)、沖縄における政治経済的変化を分析するために

④所報の進捗状況・月報・年報・エントリー状況、外部者の執筆扱いについて

(5) 第5回: 7月18日 (火) ハイブリッド@社研事務室およびTeams

①予算執行状況

②特別研究会企画 (夏期実態調査) 訪越事業 (ベトナム社会科学院とのシンポジウム共催およびエクスカッションについて) 旅程等確認/日帰り実態調査企画 テーマ: 大都市圏郊外の課題と再活性化—「オールドタウン」化に抗う多摩ニュータウン日程: 2023年9月20日 (水) について研究会担当・長尾所員より説明

③所報・所報進捗状況

(6) 第6回: 10月3日 (火) ハイブリッド@社研事務室およびTeams

①予算執行状況: 会計担当チーフ、塙所員より説明

②研究会: 特別研究会企画 (夏期実態調査ベトナム行および日帰り実態調査) 終了報告/定例研究会の承認: 中村G、9/16 (土) 15:30 ~ 17:30、神田校舎781教室、中島史郎氏 (株式会社シャトレゼ・株式会社シャトレゼホールディングス 広報室 室長) 「おいしいのに安い」を伝える戦略的コミュニケーション戦略、矢野G、11/7 (火) 12:30 ~ 13:30、生田校舎9号館6階M969会議室、石田周氏 (愛知大学 地域政策学部 准教授) (仮) サステナブル・ファイナンスの拡大に向けたEUの金融制度改革、嶋根G、10/3 (火) 16:35 ~ 18:05、生田校舎2号館1階 社会知性開発研究センター3、トルオン・ティ・トゥイ・チャン氏 (神奈川県外国人相談窓口 相談員)、難民として日本社会で生きた日々、中村G、10/30 (土) 14:30 ~ 17:30、神田キャンパス7号館731教室 + Zoom、関満博氏 (一橋大学 名誉教授) 忽那憲治氏 (神戸大学大学院 経営学研究科 教授) 長尾謙吉所員 (専修大学院 経済学研究科 教授) 河藤佳彦所員 (専修大学 院経済学研究科 教授) ※コディネーター: 遠山浩所員 (本学経済学部 教授)、地域産業と中小企業

(7) 第7回：10月17日（火）ハイブリッド@社研事務室およびTeams

- ①第122回所員総会スケジュール決定12月9日（土）午前中オンラインで開催、②訪越事業（含：実態調査〔ホンダベトナム、イオン〕）の月報掲載（1・2月合併号）執筆シンポ報告者実態調査参加者に声掛けを行うことを確認。③社研「規定・細則・内規集」について意見交換謝金研究会他

(8) 第8回：10月24日（火）ハイブリッド@社研事務室およびTeams

- ①研究会 定例研究会の承認 大橋G、11/21（火）12：30～15：30、Zoom オンライン、徳久日出一氏（ワールド・ビジネス・アソシエイツ）、野下勝彦氏（日本貿易振興機構（JETRO））、香港の魅力と将来性、世界を支える 大成長市場の中の日本"
- ②社研「規定・細則・内規集」について意見交換謝金研究会他

(9) 第9回：11月7日（火）ハイブリッド@社研事務室およびTeams

- ①研究会 定例研究会の承認：川上G、12/5（火）16：30～18：00、神田校舎782教室、川上隆志所員（本学 文学部 教授）※コメンテーター：根岸徹郎所員（本学 国際コミュニケーション学部 教授）、菅江真澄と十和田古道、佐藤G、11/29（水）18：00～19：30、社研会議室、田中正敬所員（本学 文学部 教授）、関東大震災時の朝鮮人虐殺／春季実態調査 企画案：北関東 Pt. 4として企画することを確認
- ②2024年度事業計画案および予算案について（意見交換ののち承認）
- ③社会・労働関係資料センター連絡協議会定期総会への参加について事後報告（11月6日、文献・資料担当兵頭所員）

(10) 第10回：11月21日（火）ハイブリッド@社研事務室およびTeams

- ①編集に関して年報執筆者によるカラー印刷希望の問い合わせに対する対応を決定
- ②社研「規定・細則・内規集」について意見交換謝金研究会他
- ③自己点検評価中間報告について

(11) 第11回：12月5日（火）（運営委員会との合同会議）ハイブリッド@社研事務室およびTeams

- ①支出状況資料
- ②研究会担当から：夏季実態調査（ベトナム）および次回春季実態調査案
- ③来年度シンポジウム案資料
- ④所報進捗7月号、8・9月合併号、11月号まで発行
- ⑤後期総会の準備、規定・細則・内規終の改訂発議について、社研 Web 刷新事業について
- ⑥第15期自己点検評価中間報告について

2. 運営委員会

- (1) 3月16日（木）事務局会議との合同会議：事務局会議（14）に同じ

- (2) 5月30日(火)事務局会議との合同会議：事務局会議(3)と同じ
(3) 12月5日(火)事務局会議との合同会議：事務局会議(11)と同じ

5. 研究調査活動

1. 定例研究会(公開研究会、特別研究会、基準A・B・Cを含む)

全学部にまたがる所員、研究参与、所外研究員の幅広い問題関心を積極的に採用しつつ、現代社会の諸問題に対して多様な社会科学的アプローチを試み、研究成果を積極的に公表しているのがこの定例研究会であり、例年、定例研究会は年12回程度開催することを目標としている。

今年度の研究会開催申請の提出メ切は、下記のような日程で進めてきた(下記★参照)。一定の条件を設けた上で緩やかな運用を行っている。

★2023年度の研究会申請申込みメ切日程(今後も状況によって変更あり)

- (5月開催/なし)(6月開催/定めず)(7月開催希望/定めず)(8月開催希望/7月1日)(9月開催希望/7月末日)(10月開催希望/9月15日)(11月開催希望/10月14日)(12月開催希望/11月18日)(1月開催希望/12月20日)
(2月開催希望/12月20日)

定例研究会の区分

- ◇定例研究会A：本体予算をもとに実施する。月一回程度の開催として、一回の予算枠は10万円程度とする。
- ◇定例研究会B：予算措置の有無にかかわらず研究グループが定例研究会として行うもので、予算措置を要する場合はグループ研究の予算をもとに実施する。グループ研究の成果報告会等。
- ◇研究会C：本体予算ならびにグループ研究の予算を使用せずに、定例研究会とはせず所員が企画・実施するもの。
- ◇定例研究会A、定例研究会B、研究会Cのいずれも広報は社会科学研究所が担う。
(※グループ研究所助成(特別、A)の成果報告会は定例研究会として開催されることになっている。)

2022年度(2022年1月以降)：肩書は当時

(7) 定例研究会B：研究助成A(樋口博美グループ)

日 時：2023年1月13日(金) 16:30～18:00

場 所：生田校舎社会科学研究所 会議室

テーマ：伝統的祭礼の観光化・商品化と社会・経済的变化

一諏訪大社御柱祭の報道をとおして一

報告者：神原理(所員)

参加者数：5名

(8) 定例研究会B：特別研究助成（徐一睿グループ）

日 時：2023年1月28日（土）15:00～18:00

テーマ：「コロナ期における医療崩壊と社会が求めるセーフティネットの未来像」

報告者：①金子勝（立教大学大学院経済学研究科特任教授、慶應義塾大学名誉教授）

②児玉龍彦（東京大学先端科学技術研究センター名誉教授）

その他：コメンテーター：宮崎晃臣（専修大学経済学部教授）

場 所：専修大学神田キャンパス7号館731教室とオンライン

参加者数：105名

(9) 定例研究会B：研究助成A（飯沼健子グループ）

日 時：2023年2月7日（火）16:00～18:00

テーマ：宗教改革史の系譜—政治史と宗教史の絡み

報告者：堀江洋文（所員）

業績紹介・解題：中村友保（専修大学名誉教授）

場 所：生田校舎スタジオ211

参加者数：対面44名、オンライン16名、計60名

(10) 定例研究会B：特別研究助成（徐一睿グループ）

日 時：2023年2月17日（金）13:00～16:15

テーマ：「最近のイギリス教育 危機管理問題あれこれ」

報告者：Tony Bush（Professor, University of Nottingham）

コメンテーター：広瀬 裕子（所員）

場 所：専修大学神田10号館10115教室（対面とオンラインで実施）

参加者数：31名（一般参加者含む。対面参加17名、オンライン参加14名）

(11) 特別研究会報告（社研本体）

日 時：2023年2月20日（月）10:00～11:30

テーマ：ダムと地域社会—八ッ場ダムの事例から—

報告者：鶴理恵子（所員）

場 所：オンライン

参加者数：14名

(12) 定例研究会B：研究助成A（稲田十一グループ）

日 時：2023年2月22日（水）11:00～13:30

テーマ：カンボジア現地調査報告

報告者：稲田十一（所員）「カンボジアの近代化と社会変容」

徐一睿（所員）「カンボジアにおける中国の投資と援助」

場 所：オンライン（Zoom）および社研会議室での対面のハイブリッド
参加者数：10名（対面7名 オンライン参加3名）

2023年度

（1）定例研究会A：（社研本体）

日 時：2023年6月1日（木）16:35～18:15

テーマ：「核抑止の効用と北朝鮮の平和的非核化の可能性」

報告者：芝井清久氏（情報・システム研究機構、ROIS-DS／統計数理研究所 特任助教）

討論者：原田博夫氏（専修大学名誉教授、社会科学研究所研究参与）

場 所：生田校舎1号館131教室

参加者数：39名

（2）定例研究会B：研究助成A（矢野貴之グループ）

テーマ：Economic Trends in Spain

報告者：Professor Maria Angeles Pelegrin Sole

（バルセロナ大学経済学部准教授、本学海外客員教授）

日 時：2023年6月28日（水）12：30～13：30

場 所：生田キャンパス9号館6階M969会議

参加者数：10名

（3）定例研究会A：（社研本体）

テーマ：ミャンマーからの労働力流出Labor Out-Migration from Myanmar

報告者：ティン・マウン・トゥエ氏（タイ、チェンマイ大学客員研究員）

日 時：2023年7月6日（木）16:00～18:00

場 所：生田校舎10214教室

参加者数：44名

（4）定例研究会B：特別研究助成（田中隆之グループ） 定例研究会報告

テーマ：岡崎哲二・大石直樹編『戦前期日本の総合商社－三井物産と三菱商事の組織とネットワーク－』合評会

報告者：①岡崎哲二（東京大学大学院経済学研究科教授）

②大石直樹（埼玉大学大学院人文社会科学研究所准教授）

③小村智宏（未来経済研究室代表）

日 時：2023年7月7日（金）16:00～18:15

場 所：一般社団法人日本貿易会 会議室（ROOM-A）

参加者数：22名（オンライン5名を含む）

(5) 定例研究会B：研究助成A（矢野貴之グループ）

テーマ：Bilateralism, Plurilateralism and the Trade Costs

報告者：津布久将史（所員）

時 間：2023年7月25日（火）12：30～14：00

場 所：生田キャンパス2号館2階226教室

参加者数：16名

(6) 定例研究会B：研究助成B（嶋根克己グループ）

テーマ：Vietnamese Labor Force Today: Problems and Prospects

報告者：Dang Thi Viet Phuong（ベトナム社会科学院社会学研究所研究員）

その他：Nguyen Quang Tuan（ベトナム社会科学院社会学研究所研究員）（コメンテーター）

時 間：2015年7月25日（火）16：35～18：05

場 所：生田キャンパス2号館211教室

参加者数：約10名

(7) 定例研究会A：研究助成A（森啓輔グループ）

テーマ：沖縄における政治経済的変化を分析するために：

『沖縄山原／統治と抵抗——戦後北部東海岸をめぐる軍政・開発・社会運動』

報告者：森啓輔（所員）

日 時：2023年8月1日（火）16:00～18:00

場 所：社会科学研究所生田会議室

参加者数：11人

(8) 定例研究会B：研究助成A（中村吉明グループ）

テーマ：「おいしいのに安い」を伝える戦略的コミュニケーション戦略

報告者：中島 史郎（株式会社シャトレゼ・株式会社シャトレゼホールディングス
広報室 室長）

日 時：2023年9月16日（土）15時30分～17時30分

場 所：専修大学神田校舎7号館781教室

参加者数：7名（対面4名、オンライン3名）

(9) 定例研究会B：研究助成B（嶋根克己グループ）

テーマ：インドシナ難民として「難民として日本社会で生きる日々」

報告者：チュン テイ トウイ チャン氏（神奈川県外国人相談窓口 相談員）

その他：社会知性開発研究センター・ソーシャルウェルビーイング研究センターとの共催

日 時：2023年10月3日（火）16：35～18：05

場 所：生田校舎社会知性開発研究センター 3

参加者数：15名

(10) 定例研究会B：研究助成A（中村吉明グループ）※大学院経済学研究科と共催

テーマ：地域産業と中小企業

報告者：遠山浩（所員）、長尾謙吉（所員）、河藤佳彦（所員）

その他：関満博（一橋大学名誉教授）、忽那憲治（神戸大学経営学部教授）

時 間：2023年10月30日（月）14時30分～17時30分

場 所：神田校舎7号館731教室

参加者数：対面31名、オンライン37名

(11) 定例研究会B：研究助成A（矢野貴之グループ）定例研究会報告

テーマ：サステナブル・ファイナンスの拡大に向けたEUの金融制度改革と

最近の動向について～EUタクソノミーと天然ガスと原子力をめぐる対立～

報告者：石田周（愛知大学地域政策学部准教授）

日 時：2023年11月7日（火）12:30～13:40

場 所：生田校舎9号館M969会議室

参加者数：8名

定例研究会B：特別研究助成（大橋英夫グループ）

テーマ：①「香港の魅力と将来性」

②「世界を支える大成長市場の中の日本」

報告者：① 徳久日出一（ワールド・ビジネス・アソシエイツ）

② 野下勝彦（日本貿易振興機構（JETRO））

日 時：2023年11月21日（火）12：30～15：30

場 所：オンライン

参加者数：10人

(12) 定例研究会B：研究助成A（佐藤慶一グループ）

12月3日（土）16：30～18：00／場所：中京大学名古屋キャンパス

テーマ：関東大震災時の朝鮮人虐殺

報告者：田中正敬（所員）

日 時：11月29日（水）18：00～19：30

場 所：社会科学研究所会議室

参加者： 名

(13) 定例研究会B：特別研究助成（川上隆志グループ）

テーマ：菅江真澄と十和田古道

報告者：川上隆志 (所員)
その他：根岸徹郎 (コメンテーター、所員)
日 時：12月5日 (火) 16:30 ~ 18:30
場 所：神田校舎782教室
参加者：6名

2. シンポジウム他

2023年1月22日 (日)
テーマ：専修大学社会科学研究所シンポジウム
アソシエーションの将来——絶望と希望の狭間で
報告者：小野塚 知二 (東京大学特命教授)
西部 忠 (本学経済学部教授・本所所員)
コメント：岡田 憲治 (本学法学部教授・本所所員)
時 間：14:00 ~ 17:30
場 所：ハイブリッド開催
【対面】 神田キャンパス10号館6階10061
【オンライン】 Zoom
参加者数：68名

3. 特別研究会企画

特別研究会における実態調査は夏および春の休暇中に実施されている。夏と春の合宿・集中研究会は、定例研究会では実施が困難な実態調査や自治体関係者との特定のテーマに関する討論会や工場見学などを組み込んだ多様な実態調査を開催し、また所報で調査報告を行なっている。

2022年度の春季実態調査は2022年2月26日 (日) ~ 3月1日 (水) に実施した。

2023年度の夏季実態調査はベトナム社会科学院との合同シンポジウムの実施と現地調査を行った。

(2) 2022年度春季実態調査：北関東PartⅢの実施

[行 程]

2月26日 (日)

13:00までに高崎駅東口 (ヤマダ電器前) 集合 (昼食を済ませて集合)

13:40 ~ 14:40 新島襄旧宅 (安中市)

15:00 ~ 16:00 旧葦塚製糸場 (富岡市)

17:00 ABホテル伊勢崎着

ホテル着後 旧時報鐘楼見学

18:00 ベトナム料理店「わたしの店」にて結団式

2月27日 (月)

9:00 ホテル出発 (伊勢崎市)

10:00～11:30 太田職業安定所（ハローワーク）
11:40～12:30 昼食 お食事処 うおのぶ
13:00～14:00 中島飛行機工場跡
14:45～15:45 日本定住資料館（大泉観光協会）およびリトル・ブラジル視察
16:40 ABホテル伊勢崎着
17:00～18:00 外国人移住支援NPOへのヒアリング

2月28日（火）

8:00 ホテル出発（伊勢崎市）（途中トイレ休憩をはさみ移動します）
10:30～11:30 ハンセン病施設（重監房資料館）
12:10～13:10 昼食 うどん専科 麦の香り（川原湯温泉）
13:15～14:45 ハッ場ダム・資料館（ガイドによる案内）
15:00～16:00 うどん専科麦の香りにてハッ場ダム建設・移転に関するヒアリング
17:00 ホテル渋川ヒルズ

3月1日（水）

8:45 ホテル渋川ヒルズ出発
10:00～11:00 六合赤岩養蚕農家群（中之条町：ガイドによる案内）
11:30～12:10 上州かるた館
12:50～13:40 昼食 上州物産館
14:30 高崎駅東口 解散

（1）2023年度 夏季実態調査：ベトナム実態調査の実施

日程：2023年9月11日（月）から9月16日（土）の5泊6日

[行 程]

9月11日（月）：1日目 羽田からハノイへ（往路）

～14:30 羽田空港「第3ターミナル（旧・国際線ターミナル）」にて、
フライト2時間前（14時半頃）までにはチェックインしてください。

16:35 羽田発（ベトナム航空VN385便）。

（時差2時間：以下、帰国まで現地時間表記）

19:55 ハノイ（ノイバイ国際空港）着。

VASS-INAS 指定業者がピックアップ。ロッテ・ハノイに直行。

9月12日（火）：2日目 歴史遺産ニンビン視察

8:00 所長・事務局員一部がVASS-INASを訪問。事業資金受け渡し。

9:00 ロッテ・ハノイからVASS-INAS 指定業者のバスで出発。

11:30 ホアルー着。ディンディエンホアン祠・レダイハン祠見学。

12:30 昼食

13:45 チャンアンに移動。

14:00 チャンアン視察見学。

16:30 バス出発。

19:00 ロッテ・ハノイ着

9月13日 (水): 3日目 工場見学ほか

8:30 ロッテ・ハノイより三進インターナショナル指定のバスで出発

10:15 ホンダベトナム第2工場 (ビンフック省フックイエン市): オートバイ生産工程見学

12:00 昼食

13:00 移動

午後 イオン

9月14日 (木): 4日目 ベトナム社会科学院東北アジア研究所との共催シンポジウム1日目 (※)

9月15日 (金): 5日目 ベトナム社会科学院東北アジア研究所との共催シンポジウム2日目 (※)

9月16日 (土): 6日目 ハノイから羽田へ (復路)

5:00 ロッテ・ハノイ出発

8:00 ノイバイ国際空港発 (ベトナム航空VN384便) 羽田着 15:05 (日本時間)。解散。

(※) 共催シンポジウムプログラム

「日越関係50年: 過去・現在・将来」

2023年9月14日と15日 於ハノイ (VASS B Building, 1 Lieu Giai Str., Ba Dinh, Hanoi)

後援機関: JICA、JF

1日目 (2023年9月14日)

主催: ベトナム社会科学アカデミー附属東北アジア研究所と JICA、JF

8:30-9:00 参加者受付

9:00-10:15 オープニングセッション

1. 代表者紹介

2. ベトナム社会科学アカデミー (VASS) 院長か副院長の開幕スピーチ (予定)

3. 駐ベトナム日本国特命全権大使 山田滝雄閣下御挨拶 (予定)

4. JICA 代表者の御挨拶 (予定)

5. 国際交流基金代表者の御挨拶 (予定)

6. 専修大学学長・佐々木重人教授の御挨拶 (予定)

7. VASS 院長が日越大学学長古田元夫教授に対し「ベトナム社会科学事業貢献」メダルを贈呈

8. シンポジウム参加者記念撮影

9. 日越大学学長古田元夫教授の基調講演「日越関係50年の歴史を振り返る」

10. 質疑応答

10:15-10:30 コーヒーブレイク

第1部：政治・外交・安全保障分野における日越関係

座長：

VASS 副院長 ダン・スアン・タン博士

日越大学学長 古田元夫教授

10:30 - 10:50 第1発表：「ベトナムと日本との政治・安全保障関係：成果および展望」

発表者：ベトナム社会科学アカデミー附属東北アジア研究所
チャン・ホアン・ロン副所長

10:50 - 11:10 第2発表：「日越「ミドルパワー」協力の可能性——北朝鮮問題をを中心に」

発表者：慶応義塾大学 磯崎敦仁教授

11:10 - 11:30 第3発表：「日越政治・安全保障分野における協力関係：特徴および方向性」

発表者：ベトナム社会科学アカデミー附属インド・西南亜研究所
ファン・カオー・ニャット・アイン副所長

11:30 - 12:15 ディスカッション

12:15 - 13:00 昼食（主催者：JICA）

第2部：経済分野における日越関係

座長：

VASS、世界政治・経済研究所元所長 ヴォー・ダイ・ロック教授

京都大学・経済研究所元所長 溝端佐登史名誉教授

13:00 - 13:20 第4発表：「日越経済関係：50年間の回顧と展望」

発表者：早稲田大学 トラン・ヴァン・トー名誉教授

13:20 - 13:40 第5発表：「ベトナムにおける日本の直接投資：今後繁栄のベトナムのための解決策」

発表者：計画投資省・戦略研究所
ホアン・ヴァン・クオン博士

13:40 - 14:00 第6発表：

発表者：京都大学 溝端佐登史名誉教授

14:00 - 14:20 第7発表：「外国企業からの直接投資がベトナム経済の発展に与えた役割とその課題」

発表者：専修大学 池部亮教授

14:20 - 15:15 ディスカッション

15:15 - 15:30 コーヒーブレイク

第3部：文化・教育分野における日越関係

15:30 - 15:50 第8発表：

発表者：発表者：国際日本文化研究センター
（日文研）荒木浩教授

15:50 - 16:10 第9発表：

発表者：フェー科学大学歴史学部 ズオン・クアン・ヒェップ学部長

16:10-16:30 第10発表:

発表者: ホーチミン市人文社会科学大学日本学部
フィン・チョン・ヒエン学部長

16:30-17:20 ディスカッション

17:20-17:30 まとめ

2日目 (2023年9月15日)

主催: ベトナム社会科学アカデミー附属東北アジア研究所および専修大学社会科学研究所

8:45-9:00 VASS代表挨拶および専修大学社会科学研究所所長・大矢根淳教授 挨拶

第4部: 歴史・文化・社会の日越諸問題

司会:

専修大学社会科学研究所 運営委員・嶋根克己教授

VASS元副院長 ファム・ヴァン・ドック教授

9:00-9:20 第11発表: 「日本・ベトナム・フランス~1920年代の文化交流
—極東学院(ハノイ)から日仏会館(東京)へ」
発表者: 専修大学国際コミュニケーション学部長
根岸 徹郎(ねぎしてつお) 教授

9:20-9:40 第12発表: 「1973年から現在に至るまでのベトナムと
日本との文化交流・人材協力関係の概観」
発表者: ベトナム社会科学アカデミー東北アジア研究所日本研究センター
ゴ・フォン・ラン博士

9:40-10:00 第13発表: 「ベトナムの文化産業の発展・日本との比較」
発表者: 文化スポーツ観光省文化芸術研究所
グエン・ティー・トゥー・フォン所長

10:00-10:20 第14発表: 「よみがえる十和田古道—旅と信仰をめぐって—」
発表者: 専修大学社会科学研究所・特別研究助成グループ代表
川上 隆志(かわかみ たかし) 教授

10:20-10:40 コーヒーブレーク

10:40-11:00 第15発表

発表者: 茨城大学/日越大学
伊藤哲司教授

11:00-12:00 ディスカッション

12:00-13:30 昼食(主催者: 専修大学社会科学研究所)

第5部：ベトナムと日本の社会問題の比較研究

司会：

VASS元副院長ダン・グエン・アイン教授

専修大学社会科学研究所参与・村上俊介名誉教授

13:30-13:50 第16発表：「近年における日本の経済・社会状況と最低賃金の位置」

発表者：専修大学経済学部山縣 宏寿（やまがた ひろひさ）准教授

13:50-14:10 第17発表：「農村の近代化・工業化を促進するベトナムの背景における

農村の企業と経営者」

発表者：グエン・ドック・チェン准教授

社会学研究所、VASS

14:10-14:30

14:30-14:50 第18発表

発表者：専修大学社会科学研究所 運営委員

嶋根克己（しまね かつみ）教授

および Nguyen Quang Tuan（VASS/IOS）

「在日ベトナム人の生活実態；コロナ前とコロナ後①」

第19発表

発表者：VASS社会学研究所・フォン教授

「在日ベトナム人の生活実態；コロナ前とコロナ後②」

14:50-15:00 コーヒーブレイク

15:00-15:20 第20発表：

発表者：チャン・ティー・ヴィエット・ハー Phenikaa 大学

15:20-15:40 第21発表

15:40-16:50 ディスカッション

16:50-17:00 まとめ、閉会式

18:00～ 懇親会（VASS主催）学校法人専修大学 松木健一理事長から挨拶と乾杯

（2）2023年度 夏季実態調査Part2（日帰り実態調査）

：大都市圏郊外の課題と再活性化—「オールドタウン」化に抗う多摩ニュータウン

日程：2023年9月20日（水）

[行程]

9月20日（水）

10:00 多摩センター駅集合

10:20～12:20頃 「パルテノン多摩」訪問 学芸員による説明

（昼食各自）

14:00～14:30 多摩センターから松ヶ谷へ移動（モノレール及び徒歩）

14:30～16:00頃 「コミュニティプレイスマつまる」訪問 まちづくりの取り組みに関する説明

夕刻 多摩センター駅解散

4. 研究助成

- (1) **グループ研究助成 A**（所員4名以上・年50万円3年間・定例総会にて研究経過報告義務/1名以上論文発表義務・定例研究会にて成果報告会を開催すること）

2021年度

- ◇「国際経済・地域の展開と世界各地域・各領域の諸問題」
（矢野貴之（責）・小川 健・傅 凱儀・塙 武郎・大倉正典・加藤浩平・大橋英夫・野部公一・泉 留維・内川秀二・狐崎知己・岩佐卓也・永島 剛・津布久将史・鈴木直次・藤田正孝の15名、飯沼健子・稲田十一の2名は研究員）

2022年度

- ◇「伝統的祭礼をめぐる地域コミュニティと社会関係の変容と実態－諏訪御柱の創作的伝承を事例に」
（樋口博美（責）・小西恵美・飯田義明・神原理の4名）

2023年度

- ◇「災害対応と社会状況・構造の関係についての総合的研究」
（佐藤慶一（責）・大矢根淳・飯考行・小林貴徳・福島義和・近江吉明・所澤新一郎・宮定章・浅野幸子・カルメン・グラウの10名）
- ◇「地域・産業・金融からみた日本の経済成長の低成長の要因分析」
（中村吉明（責）・田中隆之・河藤佳彦・長尾健吉の4名）
- ◇「現代沖縄をめぐる政治経済的变化に関する研究」
（森啓輔（責）・徐一睿・板井広明・宮寄晃臣・山田健吾の5名）

- (2) **グループ研究助成 B**（所員2名以上・年20万円1年間・定例所員総会にて研究経過報告義務）

- ◇「川崎市にみる子どもの居場所拠点形成の課題」
（鈴木奈穂美（責）・杉橋やよい・久木元美琴の3名）
- ◇「在日ベトナム人の生活に関するフォトボイス手法による調査研究」
（嶋根克己（責）・金井雅之の2名）
- ◇「摩擦と交流の歴史から学ぶ－朝鮮通信使、釜山倭城、そして李氏朝鮮対馬侵攻から見えるもの－」
（福山文子（責）・矢吹芳洋・嶺井正也の3名）
- ◇「最低賃金制運動の研究－歴史・現状・国際比較の視点から」
（兵頭淳史（責）・山縣宏寿・岩佐卓也・金美珍・高口僚太郎の5名）

- (3) **特別研究助成**（5名以上・年100万円3年間・定例所員総会にて研究経過報告義務、年度内に研究中間報告を定例研究会枠にて実施・助成終了後2年以内に『社会科学研究叢書』刊行義務）

2022年度

- ◇「現代社会における「治癒文化」の総合的研究－聖地・文学・震災復興と寺院・温泉・共同体」＊2025年度叢書出版
(川上隆志(責)・鈴木健郎・根岸徹郎・山田健太の4名)
- ◇「総合商社論への多角的アプローチの模索」＊2026年度叢書出版
(田中隆之(責)・中村吉明・遠山 浩・小林 守・谷ヶ城秀吉・秋山勇・保田明子・大島久幸の8名)

2023年度

- ◇「グローバルサウスと中国－新たな国際秩序への挑戦」＊2027年度叢書出版
(大橋英夫(責)・徐一睿・傅 凱儀・遠山浩・池部亮・稲田十一(2023年度研究員)・吉川純恵(2023年度研究員)・小林守(2023年度研究員)・李 春霞の9名)

6. 所報の刊行

1. 『社会科学年報』第57号の刊行

所員の執筆申し込みに応じて『年報』第58号を編集・刊行する。印刷は450部。

『年報』第58号の製作ならびに出版契約については、株式会社グラフィカ・ウエマツとの契約を継続する。下記はエントリーがあったもの全て記載。

論文

氏名	枚数	タイトル(仮題含む)
石川 和男所員	70	わが国における電気自動車開発の史的展開－1980年前後を中心に－
伊藤 博明所員	90	ベネデット・コトルリ『商業技術の書』－翻訳と解題
稲田 十一所員	70	北京コンセンサス－中国の台頭と世界的民主主義後退との連動仮説の検証
加藤 浩平所員	60	ユーロ圏のTARGETバランスとドイツの対応
久木元美琴所員	65	コロナ禍における保育の場所と家庭内のケアワーク
小林 守所員	60	リーサーチ活動におけるプロジェクトマネジメントの留意点と対策(仮題)
鈴木奈穂美所員	50	ケアの分配構造からみる日本のケア政策
中村 吉明所員	50	CASEによる自動車メーカーのガバナンス構造の変化
新田 滋所員	100	「国家資本主義」概念・再考(仮題)
前川 亨所員	100	追悼李澤厚——1980年代「文化熱」再考
松尾 容孝所員	100	(仮題)大和国吉野郡十津川郷の林野共同体—武蔵宝蔵文書と地籍図による検討—
森 啓輔 所員	50	社会運動論の国際的研究動向
上田 和勇参与	80	Well-being 経営の実態と課題(仮題)

近江 吉明参与	90	ソロン=レイノーはバブーフ主義者であったのか民衆協会
鈴木 直次参与	100	トランプ政権のパンデミック不況対策 (2) —企業支援策を中心に—
藤本 一美参与	100	戦後日本政治と「首相演説」⑨
森 宏参与	60	身長は健康に対する投入の供給を測る真の尺度

所報

小池 隆生 (事務局長)

編集後記

栢田 大知彦 (編集担当チーフ)

2. 『月報』の刊行

『月報』の制作については、株式会社グラフィカ・ウエマツとの契約を継続した。毎号400部程度印刷。

2022年度 (2023年1月以降)

(8) 12月20日 (714号)

政策科学シンポジウムに寄せて:

カーボンニュートラルに向けた動きの構造・担い手および諸論点	— 一田中隆之 (所員)
カーボンニュートラルと産業 ~自動車産業を中心に~	— 一中村吉明 (所員)
SDGs・カーボンニュートラルと大学の役割	— 一遠山 浩 (所員)

(9) 2月20日 (715・716合併号)

2022年度夏季実態調査 (北関東特集号) 2022年9月6日~9日

巻頭言	— 一大矢根淳 (所員)
社会科学研究所 2022年度夏季実態調査行程	— 一小池隆生 (所員)
赤城山南麓からわたらせ渓谷鐵道沿線にかけての交通史と歴史遺産	— 一大島登志彦
群馬県における絹産業と近代化遺産 — 桐生市の遺産登録に注目して —	— 一関村オリエ
桐生市に見る繊維産業からパチンコ機械産業への転換	— 一遠山 浩 (所員)
繊維産地と公設試験研究機関	
— 繊維工業試験場とのオンライン意見交換会 —	— 一長尾謙吉 (所員)
地域 (ゾーン) におけるトポス・コンテンツの発見とコンテクスト形成	
— 日光市の豊富な地域資源による複数コンテクストの編集 —	— 一石川和男 (所員)
晩夏の両毛紀行 — 桐生、岩宿、足尾、日光を訪ねて —	— 一高橋祐吉 (参与)

(10) 3月20日 (717号)

韓国商業統計にみる小売構造の変動	— 一趙 時英 (所員)
------------------	--------------

「債務の移譲可能性」の根拠とその歴史的起源

— Felix Martin, Money: The Unauthorized Biography (Vintage Books, 2014) めぐって

—恒木健太郎 (所員)

2023年度

(1) 4月20日 (718号)

村上 俊介参与「望月清司先生追悼『望月清司・人と思想』

(2) 5月20日 (719号)

森 宏参与「中国人の身長 (資料)」

(3) 6月20日 (720号)

森原 康仁所員「地政学的緊張下のサプライチェーン・マネジメント——国際生産の産業別パターンとGSCへのエクスポージャー」

鈴木 直次参与「パンデミック不況下における米国の個人・家計向け支援策」

(4) 7月20日 (721号)

恒木 健太郎所員「序言」

小野塚 知二「見果てぬ夢としてのアソシエーション：協同性、労指関係、瞬時の意思疎通」

西部 忠所員「貨幣とアソシエーション」

岡田 憲治所員「政治的なる『アソシエーション』を再考する機会」

(5) 8月20日・9月20日 (722号・723号) 合併号：2022年度春季実態調査特集号

小池 隆生所員「北関東Part3」行程記

大矢根 淳所長「ダム建設と生活再建・被災地復興研究の連関について」

石川 和男所員「ハッ場ダム建設後の新たなコミュニティ形成」

内山 哲朗参与「雑想往来記——社研調査「北関東Part3」に参加して」

高橋 祐吉参与「早春の上州紀行」

(6) 10月20日 (724号)

小林 守所員「プロジェクトマネジメントと経営」

神原 理所員「伝統的祭礼の観光化・商品化と社会・経済的变化—諏訪大社御柱祭の報道をとおして—」

(7) 11月20日 (725号)

徐 一睿所員・佐藤 一光「ドイツ地方公営企業の企業間関係と内部資金調整—ハンブルク市港湾事業の事例分析」

(8) 12月20日 (726号)

蔡 イン錫所員「自己エスノグラフィー研究の現状と課題」

3. 『社研叢書』第26巻刊行について

「社研叢書」(26巻) 刊行

特別研究助成(2021年度終了のグループによる)小池隆生他編『川崎圏域における産業・労働・くらしの諸相(仮)』(小池隆生・鈴木奈穂美・遠山浩・長尾健吉・兵頭淳史・宮寄晃臣・森啓輔・山縣宏寿の8名による執筆)が、年度内刊行予定。

7. その他の研究活動

1. 文献資料

(1) 文献資料の収集

- ①社会科学分野にかかわるリファレンス資料に相当するもの(辞書、統計、白書、年鑑等)、および東アジア経済社会に関する文献の収集に重点をおく、という方針に基づいて文献資料の収集を進めてきた。
- ②メーリングリストや公式WEBサイトを通じて、広く所員から文献購入希望を募り、また、事務局より積極的に文献購入についての提案を行い、予算枠を考慮しながら随時購入してきた。今年度も中国統計書を、所員からの要望を鑑み年度末までに購入する。

(2) 文献資料の修復、整理、配架等

2017年度から進めてきた山田盛太郎文庫、藤本武文庫、2つの特別文庫の修復、整理、配架作業を継続し、広く所員が利用できる状態をめざした取り組みを行ってきた。

- ①山田文庫、藤本武文庫の整理未整理のものが数多く残っていたため、2023年度も調査・分析・整理を学外の専門的知識提供者に協力依頼をして進めてきた。
- ②国内文献資料アーカイブ諸機関との交流
社会・労働関係資料センター連絡協議会の機関会員として、定例総会の参加および次年度の本研究所での開催へ向けた準備をおこなった。

2. PC / HP

(1) ホームページの充実

所員コンテンツの各種利用に際する利便の大幅な向上に向けて、電子申請が可能なシステムの構築に着手している。

(2) 電子メールの活用

電子メール活用による通信業務効率化を引き続き推進した。総会についてはGoogleフォームによる出欠確認を行った。

(3) 所報のデジタル化と専修大学学術機関リポジトリへの登録

デジタル化を行った論文に関して、掲載許諾を得ている論文については、社会科学研究所ホームページに全文公開するよう作業を行ってきた（許諾を得ていない論文は、タイトル・著者のみを掲載することになっている）。

今後も社会科学研究所のホームページに掲載される公開論文（月報・年報）への書誌情報（掲載雑誌名、号数、発行年月、DOI等）を付ける作業の準備作業を進めていく。